

世界遺産の古墳群でマラソン大会!?



ナカノシマ大学2025年2月講座

小説『はにわラソンの作者が

古墳の郷・古市の魅力を語る



上/国内第2位の面積を誇る応神天皇陵古墳(左・羽曳野市)西側の外濠沿いは、のんびり走りたくなるような道がずっと続く。奥は金剛山(右)と大和葛城山
左/選手の気持ちを知るべく、自らマラソン大会で走る蓮見恭子さん(5210)



2/20(木) 18:00~19:40

会場 大阪府立中之島図書館(3階多目的スペース)

受講料 2,500円(小学生以下1,500円) 定員 100名

講師 蓮見恭子(作家)

主催 大阪府立中之島図書館(指定管理者ShoPro・長谷工・TRC共同事業体)
企画協力 ナカノシマ大学事務局(株式会社140B) 協力 河内こんだハニワの里大蔵屋

世界遺産登録から6年。空が広く食べ物が美味しい古墳のまちでマラソン大会!?

住吉大社界隈を舞台にした『たこ焼きの岸本』で「大阪ほんま本大賞」を受賞した蓮見恭子さんの新作『はにわラソンの作者が』が地元で話題になっています。舞台は架空の「土師(はぜ)市」ですが、古市古墳群の「あの市」だと誰もが分かります。

物語は、市長の思いつきで「町おこしに42.195kmのマラソン大会をやる」と!? 主人公以外の運営スタッフは全員素人でドタバタの連続。でも大会までの緻密なプロセスは読み応えたっぷりだし、「あの市」が古墳だけでなく、豊かな自然環境や食材の宝庫だという発見もあって、一粒で何度も美味しい作品になっています。

「世界遺産になったときにちょっとだけ行った」というあなたも、蓮見さんの講義を聞いてこの小説を片手に、古市の魅力を再発見してみてください。



講師の蓮見恭子さん



マラソン大会運営のプロも唸らせ、楽しませる1冊(双葉文庫)。会場では、蓮見さんの著書『はにわラソンの作者が』(双葉文庫・924円)ほかを販売いたします

〈講師からのメッセージ〉

2019年に百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録された時、私はフルマラソン出場に向けてトレーニングを積んでいました。その時ふと「古墳を巡るマラソン大会を開催すれば盛り上がるのでは?」と考えました。そんな私の荒唐無稽な妄想が小説になるまでの過程や、地元「古市」の魅力について、お楽しみいただければと思います。

はすみきょうこ 1965年堺市生まれ。大阪芸術大学美術学科卒業。2010年、『女騎手』で第30回横溝正史ミステリ大賞優秀賞を受賞して作家デビュー。2020年に刊行した『たこ焼きの岸本』で第8回大阪ほんま本大賞を受賞。他の著書に『櫻を、君に。』『人魚と過ごした夏』『神戸北野メディコ・ペンナ 万年筆のお悩み承ります』『君と翔ける 競馬学校騎手課程』『シマイチ古道具商 春夏秋冬(あきない)人情ものがたり』など。

→受講申込は、こちらのQRコードからナカノシマ大学のWEBで受付します。

※次回は3月18日(火) 18時予定……「まちヨミのレッスン。歩いて、話を聞いて学ぶ地域経済(仮)」

講師=山納洋(地域プロデューサー/大阪ガス文化・エネルギー研究所所長代理)

